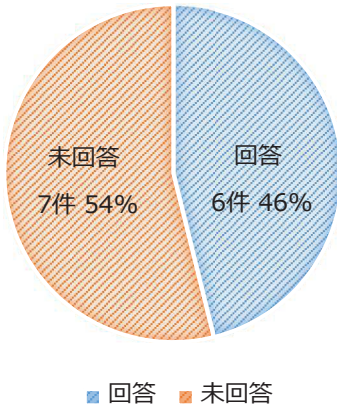


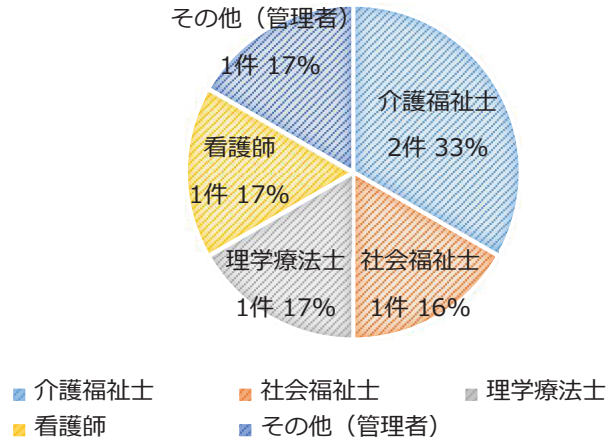
【10 地域密着型通所介護事業所】

回答者について

■ 調査数及び回答率



■ 職種

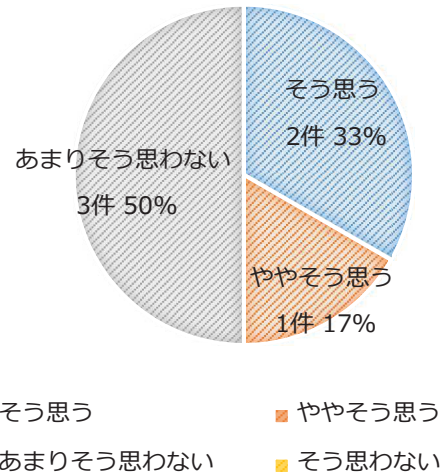


■ ここ3年程度の多職種や他機関連携の図りやすさ

ここ3年程度の多職種や他機関連携が図りやすくなりましたかの問いに対し、「そう思う」「ややそう思う」が50%となっている。

理由としては、

- ・他事業所からの利用者の紹介が増えてきた。
- ・互いの意見を交換する機会が増え、足りていないものが明確になりつつある。まだまだ課題があるのが現状であり継続していきたい。
- ・担当者会議やバイタルリンク等での他業種と接する機会が増えている。と回答している。



「あまりそう思わない」「そう思わない」の理由

としては、

- ・変化が分からない。
- ・居宅担当ケアマネとのオンラインでのやり取り等の通信手段が発達した一方で、対面や電話での確認がとりにくい場面も出てきた。電話（着信）の折り返しがない、数か月にわたって担当ケアマネと顔を合わせる事がない等。
- ・情報提供の不足を感じる。直接、情報収集することが難しい（個人情報）。

4つの場面について

■「日常の療養支援」の連携で感じている困難さと解決策

- ・医療依存度の高い利用者のデイサービスでの受け入れは、医療機器等が不足している事等で難しいため、療養の支援に重きをおく利用者の利用は受け入れが出来ていない。医療依存度が高い方が利用できる通所事業所（看護、医療体制が整備されている事）の確立。
- ・医療従事者だけでなく、家族からの正確な情報が得にくいケースがあるため、情報収集の一本化。

■「入退院支援」の連携で感じている困難さと解決策

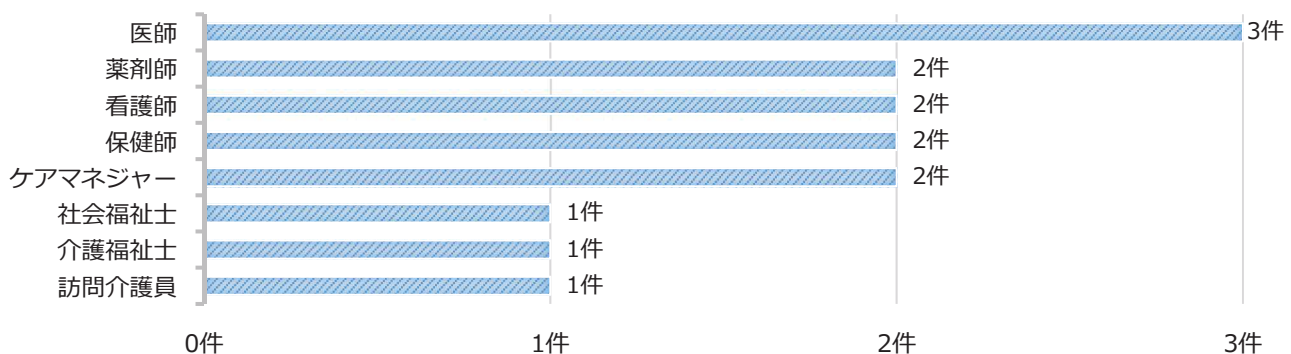
- ・退院時サマリー等の書類がなく入院時の情報が不足しているため、情報共有が必要。(2)
- ・ケアマネジャーからの情報だけになるケースがほとんどであり、情報不足を感じる。リスク管理についての情報提供が必要。

■「急変時の対応」の連携で感じている困難さと解決策

- ・急変の利用者が発生した場合は、施設職員が付き添い支援をしている。看護職員はいるが、看護職員が急変の利用者に付き添う時間が長時間になると（拘束時間が長い場合）、他の通所利用者に関する看護体制が手薄になる。家族に引き継ぐのがスムーズにいかないケースも多い。医療機関と介護事業所の連携で、何か良い手段がないか？

■今後、より連携を深めていきたい職種

「医師」が3件と最も多く、次いで「薬剤師」「看護師」「保健師」「ケアマネジャー」が2件となっている。



※0件：「歯科医師」「歯科衛生士」「管理栄養士・栄養士」「理学療法士」「作業療法士」

「言語聴覚士」「精神保健福祉士」

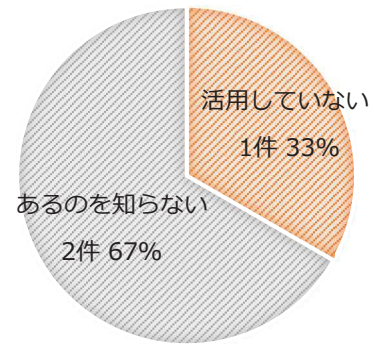
- ・医師.薬剤師：独居生活の方の薬を服用状況（血圧等）が分からない事が多くあり、食事水分量もどのくらい摂取しているのか分からない状態での血圧測定で判断しており、どの程度の血圧ならいいのかだめなのかなど、重複がないようにしていきたい。
- ・医師.薬剤師.看護師.保健師.ケアマネジャー.社会福祉士.介護福祉士.訪問介護員：なるべく多くの職種で連携を取りたい。状況によって、連携を取るべき職種は違ってくる。
- ・医師.看護師.保健師.ケアマネジャー：主治医、地域リーダー、現場の意見が必要と感じており、各中心的な立場の職種と感じている。

人吉球磨在宅医療介護連携推進事業のホームページ「だんだんなあネット」について

■「だんだんなあネット」の活用状況

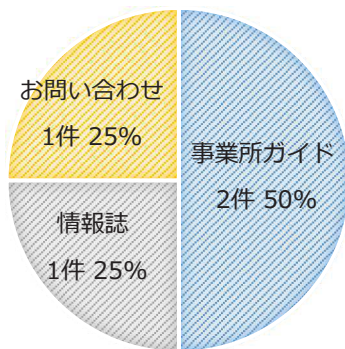
だんだんなあネットが「あるの知らない」が67%と最も多く、次いで「活用していない」が33%と、地域密着型通所介護事業所では全く活用していないことが分かった。

活用していない理由としては、「内容を把握していない。」と回答している。



■ 活用している ■ 活用していない ■ あるの知らない

■今後活用したいと思うページ



■ 事業所ガイド ■ イベント ■ 情報誌
■ お問い合わせ ■ 活用したいと思わない

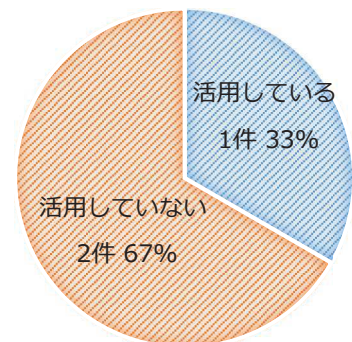
■載せてほしい情報

・連携の方法など。

医療と介護の情報共有シートについて

■「医療と介護の情報共有シート」の活用状況

医療と介護の情報共有シートを「活用していない」が67%と最も多く、次いで「活用している」が33%と、地域密着型通所介護事業所ではほとんど活用していないことが分かった。



■ 活用している ■ 活用していない

■シートを活用して良かった点

・事前に状況把握することで評価が行いやすい。

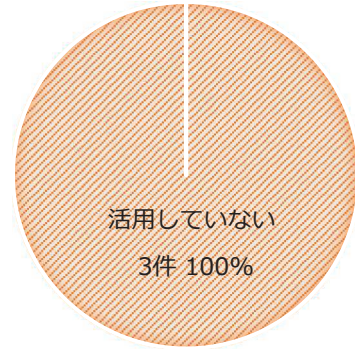
■シートを活用していない理由

・知らなかった。(2)

医療と介護の連絡シートについて

■「医療と介護の連絡シート」の活用状況

医療と介護の連絡シートを「活用していない」が 100%と回答しており、地域密着型通所介護事業所では全く活用していないことが分かった。



■ 活用している ■ 活用していない

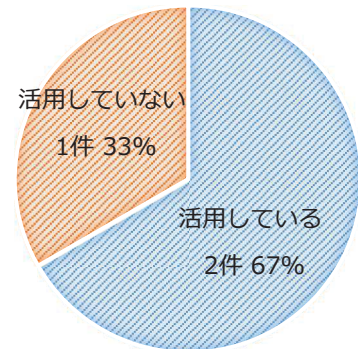
■シートを活用していない理由

- ・ 知らなかった。(3)

くまもとメディカルネットワークについて

■くまもとメディカルネットワークの活用状況

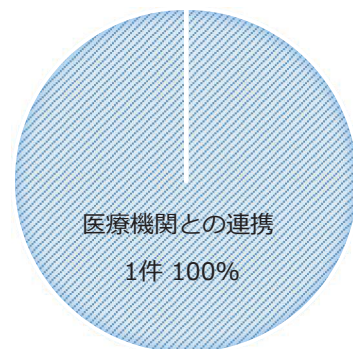
くまもとメディカルネットワークを「活用している」が 67%と最も多く、次いで「活用していない」が 33%と地域密着型通所介護事業所ではほとんどが活用していないことが分かった。



■ 活用している ■ 活用していない

■くまもとメディカルネットワークの活用方法

活用方法としては、「医療機関との連携」が 100% (1件)となっている。



■ 医療機関との連携 ■ 介護事業所との連携
■ 調剤薬局との連携 ■ 歯科院との連携

■くまもとメディカルネットワークを活用してみた意見

- ・ 利用者の情報を確認する手段としては、活用の機会は限られている。担当ケアマネから情報をもらう方が、状況が分かりやすい。

■くまもとメディカルネットワークを活用していない理由

- ・ 知らなかった。(2)

その他について

■くまもとメディカルネットワーク以外で活用している情報共有ツールの名称

- ・メディカルケアステーション

■後継者不足や人材不足に対する取り組みなど

- ・広告掲載（会社のPR、パンフレット更新）。
- ・人材紹介会社の活用。
- ・今後の目標が明確に出来るようにキャリアパスの見直し。
- ・リフレッシュ休暇の提案を検討中。

■医療と介護の連携について、日頃感じていることなど

- ・あまり連携をとる事がない
- ・メディカルケアステーションを活用しているケアマネがいて、薬剤師や医師にも情報が伝わるため助かる。
- ・介護の立場として、ケアマネジャーの力量によって医療面の把握に差が出ている。